

平成30年度自己評価結果公表シート

庄本幼稚園

I、本園の教育目標

緑いっぱいの中
おもいやりのある子ども
自主性のある子ども
明るく楽しく素直な心の子どもを目指して

- ・基本的な生活習慣を身につける。
- ・自然に対する関心を抱かせる。
- ・丁寧な保育をし、自立心を育てる。
- ・思いやりのある子どもらしい子どもに育てる。
- ・行事や活動から生まれる達成感や感動を体験する。

II、本年度、重点的に取り組む目標と計画(PLAN)

1、行事に対する取り組みと達成(非認知能力の向上を目指して)
2、保育の在り方、園児への対応
3、健康と安全への配慮
4、教師としての資質の向上

III、評価項目の達成及び取組状況(DO)

評価項目	取組状況
1、行事や活動における達成度とそこから生まれる非認知能力の向上を目指す	ア、練習から本番までの段階で少しずつ形になっていき、喜びや達成感を味わうことができた、終わった後はたくさんの笑顔が見られた。特に年長組は顕著であった。作品展ではイメージを膨らませ出来上がりを楽しみ、特に年少組は運動会や縄跳びは遊びを通じて目標に向った。本番で結ぶことより、それまでの過程を重視した。
ア、達成感、完成度	イ、自らの意志で積極的にこなそう、やらされているという気持ちにならないよう、心がけた。何事も積極的に取り組めた。チャレンジ力が出てきた。失敗を恐れて悩むことがあった。失敗してもいいと思えるよう声かけをし、協力して取り組む大切さ、を伝えた、年少組は十分に理解できにくいので、その都度声かけをした。
イ、意欲、チャレンジ力	エ、日頃から歌や楽器に多く親しみ、音を楽しみ取り組みをしている。全員が頑張ることで、出来上がったものの素晴らしさを子どもたちと考えた。正しい姿勢で座り話を聞く、集中する時とそうでない時をけじめ。
ウ、みんなで味わう達成感、協調性、思いやり	オ、行事や活動について理解を深める話をしたが、理解できていない子もいる。やらされているという感じ方を出来るだけなくした。子供達が出来るだけ自分で考え判断できるよう努めた。
エ、忍耐力、集中力	カ、少しでも良くなったことを誉める。目標に少しでも達成した時に誉める。プロセスも大事にした。途中でも、その子の頑張りを伝えるようにしている。
オ、思考力、判断力	
カ、自信へと導かせる	
2.保育の在り方、園児への対応	ア、保護者や同僚からの情報も参考にしながら、園児1人ひとりと正面から先入観なく関わり、多面的に理解しよう心がけた
ア、一人一人のありのままの姿を受け入れるようにしている。	イ、子供達に安心感を与えるため子供の目線で、話し方や言葉に気を付けるよう心がけた。
イ、スキンシップを心がけている	ウ、話を聞く姿勢がとれているか、異変を感じた時はすぐに近寄り、目を見て話をするようにしている。常に気持ちに余裕を持っていたい。
ウ、園児の話を聞くようにしている	エ、まず、自分達で考えてもらい、ヒントを出しながら一緒に解決するようにしている。時間に余裕がない時もある。
エ、園児が自ら考えたり、工夫したりできるような見守り方をしている。	オ、園児同士の関わり方の姿を捉えながら、トラブルがあると、なるべく子供同士の解決を目指す。両者の話を聞き適切な対応をする。きちんと向き
オ、友だちとの関わり方	
3.健康と安全への配慮	ア、登園時の視診、ケガや体調不良時の処置、連絡を適切に。朝の挨拶時、普段の園児の顔色、体調などの観察をしている。ケガの場合、体調が悪い場合、小さな場合でも的確に判断し、保護者に伝えた。医師の診察をうけなく園で処置した場合でも速やかに保護者に伝えることができた。内科、歯科、眼科、耳鼻科の健康診断をしている。
ア、健康への配慮	イ、手洗い、うがい、除菌等の徹底。発熱、せき、下痢等体調不良の確認と連絡、現在流行している病気の情報収集と対応に早めに行動する。
イ、伝染性病気対策	ウ、年度初めに遊具の使い方を指導。毎朝の目視点検、週1回、2カ月1回点検、遊びの指導、1か所に留まらないよう広くしっかりと目配りする。間違った使い方には注意。破損箇所、破損を予想される箇所の対策、
ウ、遊具等の点検マニュアルの活用	エ、不審者対策(訓練、通報、連絡)、火災、地震避難、自分自身の行動、安全な誘導計画を記憶しておく、
エ、避難訓練	
4.教師として資質の向上	ア、感情的にならず常に冷静に判断するよう心がけている。先入観を持たず常に新しい気持ちで、元気よく笑顔で挨拶、社会人としての心構え、常識を持つよう、常に感謝の気持ちを持ちながら、
ア、園児や保護者との対応は公平性を欠かさないよう	ウ、朝夕チェック、保育準備に追われて清掃がおろそかにならないよう気持ちよく、また衛生面でも隅の細かいところまで
イ、身だしなみ、挨拶、感謝の気持ち	エ、プライバシーに関する情報は持ち帰らない、保管や取り扱いに気を付ける。全て園で保管。
ウ、清掃や整理整頓を実行	オ、情報の交換は口頭やホワイトボード、メモ等で、困った時はクラスを超えて相談、伝達ミスが無いように注意。
エ、プライバシーに関する情報の保護	カ、自分自身勉強、研修に積極的に参加、図書館やインターネットで調べる
オ、情報の共有、職員間の協力と連携	
カ、幼稚園教諭としての専門知識や技能の向上	

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果(CHECK)

取り組むべき目標や計画について、全職員が共通に理解し積極的に取り組んだ。1.達成感や感動については、少しずつ形になっていく喜びや、終わった後の沢山の笑顔が見られた。特に、年長児に顕著であった。年少児はその感覚は少ないのは当然ではあるが、月日がたつにつれ、部分的であるが友だちと一緒に達成の喜びや、歓声が見られ、達成感や協調性の発達が感じられた。集中力や忍耐力、協調性等の非認知能力が練習の積み重ねが進む中で徐々に身につけていくように感じられた。目標に向かうプロセスの重要性、達成した場合にしっかりと誉めることの重要性が子どもたちの成長へとつながっていく。2.の保育の在り方、園児への対応については、保護者や同僚の先生からの情報を得て先入観を持たないように心がけた。常に安心感や楽しい気持ちを忘れずに子供の目線で話しかけるよう、トラブルがあれば双方の意見を平等に聞くよう心がけた。子供の自主性の尊重が時間の余裕がなく、不足した面があった。3.健康と安全については、登園時に出来るだけ言葉かけをし、子供の体調や顔色の観察に心がけ、保護者との連絡を密にした。日ごろの手洗い、うがい、消毒等に心がけた。遊具の安全については年度初めに安全な

V. 今後、取り組むべき課題(ACTION)

重点的に取り組むべき目標や項目について、全職員が十分に理解し、実行できるよう、環境づくり、意識の高揚に努力しなければならない。小規模園でこそできる個人差に配慮した行事や活動への対応、自主性の尊重、子どもへの更なる目配りを進めなければならない。
施設については常日頃の、いろいろな角度からの点検を行い、想定される危険性に気付き早めの対策、計画的な整備が必要。
職員の自覚と、研修の実施が必要。

VI. 学校関係者の評価

評価は概ね妥当であると認められる。家庭との連絡も適切に行われ、先生方のきめ細かな熱心な指導も良好であるとみとめられる。一部、連絡メモの受け渡しの改善を、の意見があった。人数の多いクラスでも丁寧に対応されていた。流行性の感染症が発生した場合、早く状況を知らせてほしい。学級閉鎖等の判断を早めに。情報の共有を徹底してほしい。等の意見があった。
また、遊具等の充実を、の意見もあった。何よりも先生と子どもたちの楽しそうな姿が第一、の意見があった。

VII. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。